



東  
大  
阪  
市

# 部局マネジメント方針

子どもファーストのまち東大阪



令和8年7月



# —目次— 部長等



危機管理監…………… P 1



公民連携協働室長…………… P 2



理事（市長公室事務取扱）  
…………… P 3



理事（企画財政部長事務取扱）  
…………… P 4



行政管理部長…………… P 5



都市魅力産業スポーツ部長  
…………… P 6



人権文化部長…………… P 7



税務部長…………… P 8



市民生活部長…………… P 9



福祉部長…………… P 10



生活支援部長…………… P 11



子どもすこやか部長…………… P 12



理事（健康部長事務取扱）  
…………… P 13



環境部長…………… P 14



都市計画室長…………… P 15



理事（副技監事務取扱・交通戦略室長事務取扱）  
…………… P 16



土木部長…………… P 17



建築部長…………… P 18



消防局総務部長…………… P 19



消防局警防部長…………… P 20



上下水道局  
水道総務部長…………… P 21



上下水道局  
水道施設部長…………… P 22



上下水道局  
下水道部長…………… P 23



教育政策室長…………… P 24



みらい教育室長…………… P 25



施設整備室長…………… P 26



学校教育部長…………… P 27



社会教育部長…………… P 28

## はじめに

国が公表した「令和7年住民基本台帳人口移動報告」によると、本市は4年連続で社会増を達成し、2,502人と大阪府内で2位、全国でも14位となりました。あわせて、出生数は前年より50人増の2,885人、令和7年12月末の住民基本台帳人口も989人増に転じるなど、全国的な人口減少の中で、本市の人口動向は明確な転換点を迎えています。

この流れをより確かなものとするには、0～4歳における社会減を社会増へと転じさせることが鍵となります。「若者・子育て世代に選ばれるまち」「安心して子どもを生み育てられるまち」という姿を市内外に力強く発信し、「子どもファーストのまち東大阪」を実感として根付かせることが、今後のまちづくりの重要なポイントです。

本市では、すべての部局が「子どもファースト」を自分ごととして捉え、小中学校給食費や2歳児保育料の無償化といった経済的支援、「はぐくむこどもセンター」をはじめとした相談支援、市民ニーズが高い「子ども・若者の居場所づくり」として八戸の里公園の整備や駅前交通広場でのイベント、老人センターを活用した子どもと高齢者の交流、図書館の自習スペース、本庁舎22階のリニューアルなど、バラエティ豊かな取組を全庁一丸となって推進しています。

「部局マネジメント方針」は、市役所の各部署のリーダーが、「何を大切にし、何に力を入れて仕事をしていくのか」を自分の言葉でわかりやすく伝えるものです。それぞれが「私の決意」や「私が考える子どもファースト」、「子どもの意見を聞き施策に反映する取組」を紹介しています。ぜひご一読ください。

「子どもファースト」を軸に、子どもはもちろん、子育て世代、現役世代、高齢者まで、すべての世代が支え合い、それぞれが主役として安心して暮らし、幸せを実感できるまちづくりを広げていきます。

東大阪市長  
野田 義和



## 令和8年度 部局マネジメント方針

ききかんりかん  
危機管理監

おおた よししげ  
大田 好茂



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

基礎自治体としての危機管理は、自然災害や重大な事故・事件に加え、社会的・人為的な危機事象、感染症対策、さらには他国からの武力攻撃への対応など、広範囲に及びます。これらに対し、全庁的な取組を行うことが求められています。

今後、高い確率で発生するとされる南海トラフ巨大地震や内陸断層帯地震、巨大化する台風の襲来、線状降水帯や前線による長時間豪雨など、自然災害による甚大な被害に備え、安心・安全でしなやかな地域社会を築くこと、さらに次世代にも豊かな環境を残すことを目指し、施策を推進してまいります。

災害はいつ、どのような環境下で発生するか予測が困難であり、「想定外」を想定する心構えが防災対策の基本です。被害を未然に防ぐ「防災」と、被害を最小限に抑える「減災」の両面から、全庁の役割を明確にし、住民の生命・財産を守るため、「災害に強いまちづくり」を推進してまいります。

### 私が考える子どもファースト

防災対策をはじめ社会のあらゆる面で、子どもたちの権利と安全、成長を最優先に考え、子ども中心のアプローチを徹底します。子どもたちは次世代を担う宝であり、様々な学びや経験を積み重ね、困難を乗り越える力は、災害時において特に重要です。

未来を担う子どもたちのために、今を生きる私たちの責任として、子どもたちの安全と、健やかな成長の環境を継続的に整えていきます。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

災害時、避難所における子どもたちの役割は非常に重要です。被災者自身が協力し合い、避難所を運営する中で、子どもたちも積極的に参加し、その視点から見た防災対策に関する想いを施策に反映していきたいと考えます。

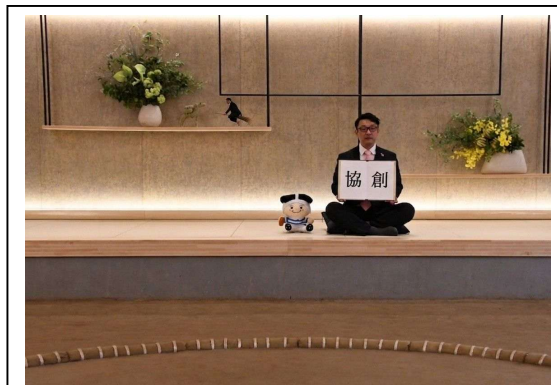
## 令和8年度 部局マネジメント方針

こうみんれんけいきょうどうしつちょう

公民連携協働室長

おかもと のぶみつ

岡本 信光



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

人口減少や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、持続可能なまちづくりを進めるためには、企業や大学など、様々な立場の方々との連携がこれまで以上に重要となっています。公民連携協働室では、対話とスピード感を大切にしながら、市民の暮らしに身近な取組を進めています。「このまちには、今、何が必要なのか？」を立場や年齢の違いをこえて、みんなが同じ課題を共有し、いっしょに考え、チャレンジできる環境づくりをめざします。

また、市から積極的に課題を発信し、企業や大学がもつ技術やアイデアを生かし、実証実験を含む新しい取組にも挑戦することで得られた成果を、暮らしやすさや市民サービスの向上につなげてまいります。

市民・企業・市それぞれの強みを生かして新しい価値を創り出す「協創」のまちづくりを進めてまいります。

また、まちの基盤を支える東大阪市自治協議会をはじめ、地域の自治会の皆様には、防災・防犯・福祉などの自主的な活動に取り組んでいただいています。市は、自治協議会との連携を強化し、地域により一層寄り添いながら、こうした自主的なまちづくりをしっかりと支えます。また支援の充実を図るとともに、これらの取組を通じて「地域力」の維持・向上をめざし、未来へとつないでまいります。

### 私が考える子どもファースト

子どもたちの成長を地域全体で支えていくことが大切です。地域が活気づくことで、子どもたちが安心して過ごし、のびのびと成長できる環境が生まれます。本市では、地域・民間・行政の連携を最大限に生かし、地域で育まれた絆を大切にしながらすべての世代が生き生きと過ごせるまちづくりと地域力の向上を引き続き支援してまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

地域の企業や大学、関係部門と力を合わせ、子どもたちが多様な世代と共に行動し、地域へ思いを伝えられる環境を育んでまいります。

また、子どもたちの思いを原動力とし、当室の強みである「連携力」を生かして、すべての世代により良い影響が広がっていく仕組みづくりを進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

り じ しちょうこうしつちょうじむとりあつかい  
理事 (市長公室長事務取扱)

たつみ たかひろ  
巽 崇博



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

市が直面する様々な課題に対し、全部局が同じ方向を向き、「チーム東大阪」として力を発揮できるよう、市長公室として総合調整機能を着実に果たすことが重要な役割であると認識しています。社会動向や国・他自治体の動きを的確に捉え、迅速かつ丁寧に情報共有を行うとともに、各部局の状況や想いに寄り添いながら、庁内連携のさらなる強化に取り組んでまいります。また、内部統制の観点から、職員一人ひとりが高いコンプライアンス意識を持ち、業務リスクを組織として適切に管理できる体制づくりを進めます。引き続き、市民の皆様から信頼される市役所をめざし、堅実で透明性の高い市政運営に尽力してまいります。

### 私が考える子どもファースト

私にとっての子どもファーストとは、子どもたちが安心して学び、遊び、自分らしく成長できる環境を整えるとともに、将来に夢や希望を描けるまちをつくることだと考えています。子どもたちの笑顔や元気な声が地域にあふれることは、まち全体に活力をもたらし、人と人とのつながりをより豊かなものにしてくれます。子どもにとって心地よいまちは、保護者をはじめ高齢者や障害のある方など、すべての世代にとって暮らしやすいまちでもあります。

そのため、子どもファーストの視点を市政全体に広げていくことが、本市の魅力向上や持続的な発展につながるものと考えています。市長公室としても、子どもファーストの理念を共有しながら、職員一人ひとりが自らの役割を意識し、市民のウェルビーイング（幸福度）の向上に貢献できるよう、引き続き取り組んでまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

市長公室は、市政に関する意見や提案を幅広く受け付ける広聴の仕組みを通じて、世代を問わず市民の声を市政に反映できるよう取り組んでいます。子どもたちの声も、将来のまちづくりに欠かせない大切な意見であると考え、その思いを施策へとつなげていくことが重要です。本市の子どもファーストの取組について、丁寧に分かりやすい情報発信を心がけ、子どもたちや子育て世代が市政を身近に感じ、関心を持ってもらえるよう工夫を重ねてまいります。子どもたちが自らの意見を発信し、それがまちづくりに生かされていく実感を持てる環境づくりを進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

り じ き かく ざい せい ぶ ちょう じ む どり あ つ かい  
理事 (企画財政部長事務取扱)

な かに し けん じ  
中西 賢治



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

企画財政部の仕事は、市のいちばん大切な計画を、きちんと進めることです。そのために、何をするかを考え（企画立案）、お金の使い方を決め（予算編成）、市の仕事に必要な資金を確保します（財源確保）。先に立って道を示したり、後ろで見守ったりしながら、市全体を正しい方向に動かすかじ取り役をすることが、企画財政部長の大切な役目です。

また、今年度は、令和8年から10年間続く「東大阪市公共施設等総合管理計画（第2期）」が始まる年です。人口が減ることや、施設の老朽化をふまえ、これから必要とされる施設の数や使い方を見直していきます。これまでの計画では、施設の売却・貸付で多くの収入を得てきました。今後も収入を確保しながら、息の長い施設運営を進めていきます。

### 私が考える子どもファースト

私が考える子どもファーストとは、子どもや若者の目線を、市役所のすべての仕事のまんなかに置くことです。子どもファーストを出発点にして、人が増え、世代をこえてつながる、元気なまちの流れをつくります。今の人口増・社会増という良い流れを、まちがもっと成長する力に変えて、未来の東大阪をつくる大切な投資として、成長の作戦として取り組んでいきます。

昨年は本庁舎22階に子どもを中心においた多世代が集うシンボルとなる「おおぞらパーク」を整備しました。今後は、「子どもファーストのまち東大阪」を市民とともに育て、市内外へ発信し、子ども若者の体験や「やってみたいこと」を応援することで、東大阪の成長を支える都市ブランドとして定着させていきたいと考えています。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

昨年度の「ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル」では、市民と中高生が参加し、「子ども・若者が自由に夢を描けるまち」をめざすことを共有しました。子どもの夢は、「こうだったらいいな」「少し違うと思う」といった日々の小さな声の積み重ねから生まれます。その声に耳を傾け、大切に受け止めることが、未来をつくる力を育てます。意見を聞くことは特定の部署だけの取組ではありません。全庁で「声を聞くまちづくり」を進めるため、新たに「子ども・若者版 地方創生ラウンドテーブル」を開催し、「(仮称) 子どもの権利に関する条例」の制定につなげます。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

ぎょうせい かんりぶちょう  
行政管理局長

せがわ まさつぐ  
瀬川 政嗣



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

変化の激しい社会情勢の中では、市民志向で自ら課題を設定し、主体的に行動できる職員を育成し、かつ、学習・挑戦を尊ぶ組織文化づくりに取り組むことが重要です。さらに、より質の高い行政サービスの実現と職員自身も働きやすさと働きがいを感じられる組織をめざして、「人材育成基本方針」を策定します。

また、新たに策定しました「デジタル・ガバメント推進計画」に基づき、行政目線から市民目線を重視したデジタル化へ転換し、子ども・子育て分野におけるDXの推進をはじめ市民の利便性向上を計画的に実現していきます。あわせて、情報セキュリティ対策を徹底し、情報資産を適正かつ安全に取り扱ってまいります。

さらに、昨今の人件費等の高騰による影響を踏まえ、特に複数年にわたる契約について、国の方針を参考に適正な対応が図れるよう取り組んでまいります。

### 私が考える子どもファースト

子どもファーストの推進には、行政において、子ども一人ひとりの多様性を尊重した個々の状況に応じた支援を、各所属が必要に応じて連携し、切れ目なく続けていくことが必要と考えます。また、地域においては、市民の皆様へ、日常の中で子どもを見守り、子どもの声に耳を傾ける役割を担っていただき、地域と行政が連携を図ることによって、社会全体で子どもの成長を温かく支える環境づくりが進むものと考えます。

行政管理局におきましては、各部局との連携を図り、子どもファーストにつながる取組に関わっていきます。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

子どもの生活に関わる施策を形成する段階において、子どもの目線で出された意見を反映し、実施することがより効果的なものになること、また、子どもが自身の意見が取り入れられることによって、自己肯定感をもち成長につながるなどの視点をふまえ、施策に取り組みます。様々な環境におかれたすべての子どもが、平等に、そして自由に意見を言える環境をつくる必要があります。市役所からの情報発信の充実と、子どもが主体的に意見を発信できる環境の実現に向け、DXの視点を取り入れ各所属と連携して取り組んでまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

としみりよくさんぎょうす ぽーつぶちょう  
都市魅力産業スポーツ部長

たけもと ひろお  
竹本 大雄



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

都市魅力産業スポーツ部は、産業・観光・スポーツと築き上げてきた本市の魅力を融合し、国内外へ発信することで、都市ブランド力の向上による地域経済の活性化を図る役割を担っております。

産業分野においては、大阪・関西万博で注目を浴びた本市モノづくり企業のさらなる挑戦を海外展示会への出展支援事業を通じて、また中之島クロスに設置する相談窓口での医療分野における企業をマッチングする機会の創出を通じ、支援してまいります。

観光分野においては、DMO（東大阪観光協会）と連携し、体験型観光や食べ歩き、ロケ地をめぐる観光などを進め、にぎわいあふれるまちづくりにつなげてまいります。

スポーツ分野においては、ワールドマスターズゲームズ2027関西大会の成功に向け、機運醸成を図るとともに、スポーツ・観光・商業の各部門が同一部内にある強みを生かし、スポーツツーリズムを推進し、地域経済の活性化につなげてまいります。

### 私が考える子どもファースト

モノづくり体験やまち歩きを通じて、子どもたちが本市の歴史や文化を知ること、自分の住んでいるまちを好きになれるように、体験と観光を組み合わせた取組を進めてまいります。

また、参加型スポーツイベントを通じて、スポーツをする喜びや新たなスポーツとの出会いの機会を提供するとともに、本市最大のスポーツコンテンツである花園ラグビー場で心に残る機会の創出に取り組んでまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

モノづくり体験や農業体験、参加型スポーツイベントなどで、子どもの喜ぶ顔が見られ、素朴な質問を受けられるような参加者と直接触れ合う機会を通じて、率直な感想や気づきを把握できるようにします。若者の就労に関するアンケートや、SNSを活用した意見収集も行い、特に産業・観光・スポーツの各分野において、子ども・若者の声を施策の改善に生かしてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

じんけんぶんかぶちょう  
**人権文化部長**

おのうえ ゆうすけ  
**尾上 雄右**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

人権文化部では、すべての人の人権が尊重され、誰もが気軽に歴史や文化に触れることのできるまちをめざして、様々な取組を進めています。

まず、人権に関する取組として、インターネット上での誹謗中傷等多様化する人権問題への啓発や、犯罪被害者とその家族を支援するための見舞金制度を創設し、安心して暮らすことのできるまちづくりを推進します。また、性別等に関わらず、すべての人が自分らしく生きられる社会を築くため、性的マイノリティのカップルがパートナー関係を届け出たことを証明する新たな制度を導入します。これらの取組を多くの人に知ってもらい、互いの人権を尊重し、差別のない、誰一人取り残さない社会の実現をめざしていきます。

次に、文化に関する取組では、まちの歴史や文化を楽しく学び、体験できる新博物館の整備を進めています。また、文化芸術を身近に感じることが出来る出張コンサートやイベントを実施し、すべての人々が文化芸術に触れる機会を提供するまちづくりを進めてまいります。

### 私が考える子どもファースト

子どもたちは、これからの東大阪市を担う大切な存在です。人権における「子どもファースト」とは、まず子どもたち一人ひとりが、自分が権利の主体であることを理解することが出発点だと考えており、様々な人権をテーマにした講座やイベントを実施することで、子どもたちが豊かな人権意識を育む環境を整えています。

さらに、子どもたちが健やかに成長し、感性や創造性を発揮できるよう、乳幼児を含む幅広い年齢層の子どもたちに、生の文化芸術に触れる機会を提供していきます。また、新博物館の整備と連携し、地域の文化財に触れられる子ども向けの事業を展開し、子どもたちが自分たちの住むまちに愛着を持てるよう、郷土の魅力を発信していきます。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

人権文化部では、子どもを対象とした事業において、子どもたちの生の声を聴くためのアンケート調査を実施しています。子どもたちが抱いた関心や「してみたい」と思ったことをしっかりと捉え、それを次の事業や他のイベントに反映する仕組みを整えていきます。こうした取組により、子どもたちがより生き生きと学び、気づきを得られる機会を創出していきます。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

ぜいむぶちょう  
税務部長

しみず つぎお  
清水 次男



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

税務部は、財政の根幹をなす市税の課税・徴収を担当する部署です。税務行政は、自治体の財政基盤を支える屋台骨であり、その執行に当たっては納税者の皆様との深い信頼関係が不可欠です。法令を遵守し、公平公正な課税・徴収業務を行う一方で、市民一人ひとりの生活や、地域の未来を担う子どもたちの視点を忘れない温もりのある税務行政をめざし、困難な課題から逃げず、最終的な責任を負う覚悟を持って組織の先頭に立つ決意です。

未来を担う子どもたちが健やかに成長し、夢や希望を持って生きることができる次世代社会を実現するための財源確保を担う部署として、その責任を肝に銘じ、今後も業務に邁進してまいります。

### 私が考える子どもファースト

私たちが確保する税収の一部は、地域の未来を担う子どもたちのための財源であるという認識を税務部内で共有します。そして、東大阪版子どもファーストロードマップにある次世代への投資や社会全体のボトムアップに繋がる子どもファースト施策を確実に実行することが、子どもたちの健やかな成長に直結するという使命感を持ち、それを支える課税・徴収業務に信念を持って取り組んでまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

子どもたちは未来の主役であり、未来の納税者でもあります。普段からわかりやすい広報を心がけるとともに、市内の学校において税の使われ方や大切さを啓発する租税教室やブース出展を行うふれあい祭りでの啓発を通じ、「自分たちのまち、東大阪市では税がこんな形で使われているんだ」ということを子どもたち自身のこととして捉え、この社会において税はなくてはならないものであると実感できるよう啓発に努めてまいります。

また、税に関する作文募集事業では、子どもたちの税に対する思いや意見を広く知ってもらうための展示会を実施することにより、納税は憲法で定められた義務であり、国を維持し発展させていくために欠かせないものであることを市民に広報し、健全な納税意識を醸成するとともに、公平公正な課税・徴収業務に反映できるよう引き続き取り組んでまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

しみんせいかつぶちょう  
市民生活部長

ほりのうち さとる  
堀ノ内 悟



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

市民生活部では、住民票などの交付や戸籍などの届出、マイナンバーカードの交付や消費生活相談、医療保険、医療費の助成、子どもに関する手当など、市民の皆様の暮らしに最も近い業務を担うとともに、地域活動の活性化に向けた支援を行っています。

これからのデジタル社会の基盤の一つとなるマイナンバーカードの普及について、3歳6か月児健診会場への出張申請の実施など、利便性を高める取組を進めるとともに、国民健康保険の健診を受ける際、健康アプリ「アスマイル」で市独自のポイントを継続して付与します。これにより、特定健診の受診率をさらに高め、市民の皆様の健康づくりを推進してまいります。また、リージョンセンターのエレベーター改修や市民プラザのホールの舞台照明、音響装置の更新により、地域活動の拠点である市民プラザを一層安心して快適に利用していただくことで、地域の活性化につなげてまいります。

### 私が考える子どもファースト

私はこの東大阪市が、すべての子どもや若者そして子育て世代にとって安心して過ごせる、居心地のよい“居場所”であってほしいと願っています。

そのためにも地域まちづくり活動助成金の交付を通じた、様々な世代の居場所づくりや子育て支援などの活動を行う団体への支援、子どもたちの安全にもつながる青色防犯パトロール活動への支援、子どもや地域の方が集う市民プラザのさらなる活性化、インターネットとの正しい付き合い方を学ぶ「ネットリテラシー」などの消費者教育に取り組んでいます。

また、基礎的な経済支援として、国民健康保険における保険料の軽減・免除措置や出産育児一時金の支給といった負担軽減への取組、児童手当や子どもの医療にかかる費用の一部助成など、子育て世帯に向けた施策に取り組んでおり、市民生活を送る上で、子どもや子どもを育てる世代の人たちにとっての居心地のいい“居場所”をめざしてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

市がイベントを行う際や地域の活動を支援するにあたっては、アンケートなどを通じて子どもたちや子育て世代の想いを的確に捉え、ニーズに即したものとするよう努めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

ふくしゅちょう  
福祉部長

もり たかや  
森 貴也



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

福祉部では、認知症や障害の有無、年齢や健康状態にかかわらず、誰もが住み慣れた地域で安心して、自分らしく暮らし続けることができる共生社会の実現をめざし、様々な施策に取り組んでおります。

認知症施策では、「認知症は誰もが当事者になり得る」という視点を大切にし、予防や理解促進、支え合いの仕組みづくりなどを進め、今後も認知症であっても地域で安心して暮らせる、認知症にやさしいまちづくりを推進してまいります。

また、人生100年時代を見据え、健康寿命の延伸に向け、高齢期においても社会と関わり続けられる環境づくりに取り組んでまいります。

障害者施策では、事業所数や給付費が増加する中、サービスの質の向上・確保が課題となっており、持続可能な制度となるよう、障害福祉サービス等の適正化に取り組んでまいります。また、市内のバリアフリー環境の整備やこころのバリアフリーの推進にも力を入れ、着実に施策を推進してまいります。

さらに、災害時においても、高齢者や障害者など要配慮者の生命と尊厳が守られるよう、福祉避難所の確保や体制整備を進めてまいります。

### 私が考える子どもファースト

子ども一人ひとりの生活や将来の可能性を見据え、誰一人取り残さない支援の着実な促進と、福祉教育や手話の体験学習などを通じ、個々の子どもの成長だけでなく、地域共生社会の担い手として成長できる環境の整備を進め、年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で、地域の人とのつながりを大切にしながら、支え合い、助け合い、誰もが安心して自分らしく活躍できる地域をめざしてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

様々な会議や意見交換の場などにおいて、当事者やその家族、支援者などから意見をいただき、本市の福祉の推進に向け、施策に反映しております。

引き続き、様々な方からの意見を丁寧に受け止め、施策の実施や改善に取り組み、子どもの権利を尊重するとともに、子どもファーストの推進につなげてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

せいかつし えんぶちょう  
**生活支援部長**

たけうち ともお  
**竹内 智雄**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

生活支援部は、市民の皆様の暮らしを支える部局として、生活に困りごとを抱える方が安心して相談できる窓口を設け、様々な相談に対応しています。近年は、物価高騰の影響などにより、経済的に厳しい状況や生活上の課題を抱える方からの相談が増えています。

こうした課題は、仕事や健康、家庭環境など複数の要因が重なっていることも多く、関係機関と連携しながら、一人ひとりの状況に応じた支援を行っています。「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、必要な支援につながるよう、取り組んでまいります。

また、令和8年度には八戸の里公園内に戦没者追悼碑の設置を予定しております。戦没者への追悼とともに、八戸の里公園を訪れる方にも親しみやすく、平和への思いを後世に末永く伝えられる追悼碑となるよう取り組んでまいります。

### 私が考える子どもファースト

貧困家庭を含むすべての子どもが、自ら将来の夢や希望を描き、その実現に向けて安心して成長できる環境を整えることが、私が考える子どもファーストです。子ども一人ひとりの立場や気持ちに寄り添い、将来の選択肢を広げていくことが大切だと考えています。

生活支援部では、「がんばる中学生・高校生サポート事業」を通じて、貧困家庭の中学生・高校生を対象に、学習支援や安心して過ごせる居場所の提供、進路に関する相談や情報提供を行っています。

今後も、子どもたちが孤立することなく、自分らしい将来を描けるよう、関係部局と連携しながら、子どもたちの明るい未来を支える取組を進めてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

貧困家庭の子どもを対象とした「がんばる中学生・高校生サポート事業」では、参加した子どもたちへのアンケートを実施し、事業への感想や要望を把握しています。子ども一人ひとりの意見を大切に、子ども自身の声を施策に反映することで、実態に即した支援につなげるよう取り組んでいます。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

こどもすこやか<sup>ぶちょう</sup>部長

いわもと ひでひこ

岩本 秀彦



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

東大阪市では、令和8年4月から2歳児の保育料を無償にし、さらに、令和9年4月からは1歳児の保育料も無償にする予定です。保育料無償化に合わせて、保育園で働く保育士を確保し、保育園を利用できる家庭を増やすことや、保育の内容を充実したいと考えております。

また、保育園に通う家庭だけでなく、家で子育てをする家庭への支援も大切にしたいと思っています。令和8年4月には、その家庭を支援する「こども・こそだて応援課」を新たに設置し、子育て応援の事業として、「こども・子育て応援ポイント事業」を始めます。この事業は、子どもや保護者の様子を見守るための家庭訪問や、市内の子育て支援施設を利用するとポイントがたまり、おむつなどの育児用品と交換できる仕組みです。この事業を利用して、東大阪市での子育てを楽しんでいただきたいと思います。また、「(仮称) 岩田こども一時預かりセンター」を令和9年2月頃に開設し、ニーズが高い一時預かり事業を充実していきますのでぜひご利用ください。

さらに、令和8年4月には「はぐくむこどもセンター」がスタートしました。妊産婦や子育て家庭、子どもたちの相談支援と虐待に至らないための予防支援を進めていきます。

このように、東大阪市では子育て支援を充実させています。今後、子育てについての情報発信にも力を入れていきますので、東大阪市の子育て施策に注目してください。

### 私が考える子どもファースト

子どもも大人と同じように意見を表明することができること、意見を言えない子どもの思いもくみ取る、そしてその思いが尊重されるまちづくりを進めることが必要だと考えます。一人ひとりの思いがまちづくりに反映されていると、子どもたち自身が感じられるように、みんなの声を大切に、尊重し、具体的な施策に取り入れてまいります。これが「子どもファーストなまち東大阪」の姿であり、その実現に向け取り組んでまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

今後、子どもの権利に関する条例の制定やこども計画の策定、児童相談所の設置を進めていきます。この先多くの場面で子どもの意見を聞く取組は不可欠であるという考えのもと、丁寧に子どもの声に耳を傾け、施策への反映を検討し、子どもたちに最善の利益がもたらせるよう取組を進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

り じ けんこうぶちょうじむとりあつかい  
**理事 (健康部長事務取扱)**

た なか けん じ  
**田中 健司**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

令和8年度の新たな取組として「アピアランスケア支援事業」を開始いたします。がん患者の方が自分らしく前向きに療養生活を送れるよう、ウィッグや乳房補正具等の購入費用を助成することで、外見の変化に伴う心理的・経済的負担を軽減し、安心して日常生活や就労を継続できるよう支援に努めてまいります。また、妊婦を対象としたRSウイルスワクチンの定期接種化に合わせ、ワクチンで予防可能な感染症に関する情報を、市民の皆様へわかりやすく発信してまいります。

次に、母子保健と児童福祉の両機能が連携する「こども家庭センター（はぐくむこどもセンター）」を設置いたしました。妊娠・出産から子育てに至るまでの様々な不安や悩みに対し、切れ目のない一体的な支援体制を構築してまいります。

さらに、新斎苑の整備については、既存施設の老朽化と今後の火葬需要増加への対応を並行して進めます。地域住民の皆様への丁寧な説明を重ね、令和8年3月に都市計画決定に至りました。今後は基本計画に基づき、民間資本等活用手法による要求水準書の作成および事業者選定に着手し、令和13年度の供用開始をめざして計画的に整備を推進してまいります。

### 私が考える子どもファースト

「このまちで子どもを生み育てたい」と感じていただくためには、保健所・保健センターが展開する多角的な支援事業が極めて重要です。特に子どもファーストの実現には、保護者が一人で悩みを抱え込まない環境づくりが欠かせません。その最前線に立つ保健所・保健センターは、子育ての喜びや不安を分かち合える「心の拠り所」であるべきだと考えます。

特に、市民の皆様との「ファーストコンタクト」の場となる保健センターは、健康や発育、子育てに関する些細な悩みでも相談できる、直接的支援の拠点です。誰もが気軽に立ち寄り、心から安らげる空間づくりに努めるとともに、一人ひとりに寄り添った温かみのある支援を推進してまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

乳幼児をはじめとする小さな子どもは、その表情がすべてを物語ると言っても過言ではありません。保健センターに来所される子どもの表情や仕草、親子の様子など、言葉にならない小さなサインをいち早く察知し、適切な支援に繋げられるよう取り組んでまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

かんきょうぶちょう  
**環境部長**

たに けんいち  
**谷 賢一**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

環境部では、「第3次環境基本計画」において「豊かな環境を創造するまち・東大阪」をめざすべき環境像として掲げ、環境負荷の少ない持続可能な社会・環境づくりに取り組んでいます。喫緊の課題である地球温暖化対策については、令和8年度より本庁舎と旭町庁舎に再生可能エネルギーの割合が100%の電気の導入を開始し、さらに他の公共施設への導入に向けた準備も進めます。また、2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた取組を推進するため、公募により新たにロゴマークを作成しました。今後はこれを積極的に活用し、本市の取組を発信することでゼロカーボンシティの実現に向けた機運の醸成を図ってまいります。

新しいごみ収集拠点である環境センターの整備については、基本設計・実施設計等に着手し、令和11年度の供用開始に向けて着実に作業を進めてまいります。

さらに、令和8年3月に策定した「一般廃棄物処理基本計画（第8期）」の基本理念「みんなで取り組み 次世代につなぐ 循環型都市 ひがしおおさか」の実現のため、市民・事業者・行政の連携により、ごみの発生抑制や分別・リサイクルなど3Rの取組をさらに推進してまいります。

### 私が考える子どもファースト

本市に集うすべての人との協働で、豊かな環境を創造・保全するとともに、それを次世代に引き継いでいくことが私の考える子どもファーストです。

そのためには、市民、事業者、行政等の各主体が環境問題について考え、実際に行動へ移すことが重要と考えます。このため、環境部が実施する様々な施策の普及啓発や支援をさらに充実させることで、市民や事業者の皆様の行動変容を促せるよう努めてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

これからの社会を生きていく子どもたちにとって、地球温暖化等の環境問題は喫緊の課題です。環境教育出前講座の実施により、子どもたちが環境について考える機会を増やし、そこで子どもたちから出された疑問や意見を、可能な限り施策へ反映することで、豊かな環境を創造するまちづくりに生かしてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

としけいかくしつちょう  
都市計画室長

かい かずゆき  
甲斐 一行



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

都市計画室では、人口減少や高齢化、災害リスクの高まりなどの都市課題に対応するため、立地適正化計画に基づき、生活に必要な施設や居住の適切な誘導を進めています。あわせて、用途地域の見直しや都市計画道路の必要性を再検討し、効率的で持続可能な都市基盤の形成に取り組んでいます。

本市は、モノづくり産業の集積、点在する文化資源、生駒山系の豊かな自然、多くの大学の立地など多様な魅力を備えています。加えて都心と自然の双方に近接し、大阪市をはじめ関西の主要都市へ短時間で移動できる高い利便性を有しており、大阪都市圏を支える重要な役割を果たしています。

こうした都市課題への対応と本市の特性を踏まえ、都市機能の集約と地域特性に応じた土地利用・まちづくりを進め、防災性の向上を図り、安全で暮らしやすく魅力ある都市の実現をめざす必要があります。

将来を見据え、多様な分野を横断的に結び付ける視点をもつ部署として、安全で快適な生き生きとした持続可能なまちづくりを推進し、これらの取組を通じて都市の質の向上を図り、その成果を新たな価値の創出へとつなぎ、「感動創造都市 東大阪」の実現に貢献してまいります。

### 私が考える子どもファースト

まちの将来を担う子どもたちが安全に生き生きと暮らせる環境づくりは、子育て世帯だけでなく、高齢者などすべての人にも快適な都市環境の形成につながり、誰もが暮らしやすい魅力的なまちを実現するための核となる視点と考えております。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

子どもの日常の気づきや経験を継続的に受け止め、対話や参加の場などで得られた声を、どの段階でどのように反映することが適切かを整理し、意見を生かす仕組みの基盤づくりを進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

理事 (副技監事務取扱・交通戦略室長事務取扱)

藤 埜 克彦



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

わたしたち交通戦略室では、みなさんがバスやタクシー、電車などの公共交通を使っ  
て安全で便利にお出かけできるようにお手伝いをしています。東大阪市は、電車の駅やバス  
路線がたくさんありますが、まだまだ歩くことがたいへんな急な坂道がある地域や、駅まで  
遠い地域に住む人がいたり、乗りたいときにバスやタクシーに乗れずにこまっている人がい  
たりするほか、行きたい場所にどんな乗り物で行けるのかわからない人もいます。

わたしたちはそのような人たちのために、モノレールを東大阪市までのばす仕事や、バス  
の新しい行き先を増やすこと、また、タクシーを使いやすくする仕組みを考える仕事をし  
ています。たとえば、いままでになかった新しい仕組みで乗り物を走らせることや、無人  
で走るバスなどにチャレンジして、公共交通をもっともっとみんなに使ってもらえるよう  
になる取組をおこなっています。

みんなが乗りやすく、使いたいときに使える交通をつくることで、わか者に選ばれ、高  
れい者が活やくする活気あふれるまちづくりをめざしていきます。

### 私が考える子どもファースト

まちの未来をつくっていくのは、いまの子どもたちです。だからこそ道路や乗り物は、こ  
どもたちがストレスなく自然に利用できるじょうたいをつくるのがとても大事だと思っ  
ています。子どもたちに、東大阪市ってやっぱり便利だなと感じてもらえれば、それはす  
べての世代の人たちにとっても便利な東大阪市が実現できたことにつながるため、引き続き、  
子どもファーストの取組を進めていきます。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

「市民ふれあいまつり」や「マスターズ花園開催記念イベント」などの市のイベントに、  
バス、タクシー会社の方といっしょに参加し、バスやタクシーの便利さや新しい乗り物の  
仕組みについて伝えながら、子どもたちといっしょに公共交通について考えていける場を  
つくっていきます。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

どぼくぶちょう  
土木部長

かみの ひでき  
上農 秀樹



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

土木部は、「魅力あふれる都市空間の創出」「誰もが利用しやすい交通環境づくり」「危機や災害に強く、安心して暮らせるまちづくりの推進」を基本姿勢として、市民の皆様から「東大阪はええまちな」と実感していただけるまちづくりに、全力で取り組んでまいります。

土木部が整備・管理する公園や道路、河川などは、子どもから高齢者まで、すべての世代の市民生活を支える重要な社会基盤です。安全で安心して利用でき、かつ利便性と魅力を備えた施設や交通環境の整備を着実に進めるとともに、既存施設についても、バリアフリー化や老朽化対策を計画的に実施し、適正な維持管理に努めてまいります。

また、市民の皆様から寄せられる声に迅速かつ丁寧に応えるためには、組織の枠を超えた連携が不可欠です。市民に『縦割り行政』を感じさせることのないよう、部内はもとより関係部署との連携を強化し、「人と人とのつながり」を大切にしながら、市民の皆様への安全・安心を守る行政運営を進めてまいります。土木部長として責任と使命を自覚し、現場と市民の皆様への声に真摯に向き合い、信頼される行政に邁進してまいります。

### 私が考える子どもファースト

子どもたちの安全・安心を守るインフラ整備は、将来のまちづくりそのものです。公園や道路の安全確保、交通事故を防止するための対策など、子どもたちが安心してのびのびと過ごせる環境を整えることは、行政の重要な責務です。

そのため、子どもたちや子育て世代の声を丁寧に受け止め、事業に反映していくことを重視してまいります。利用者の意見を取り入れた駅前交通広場や公園整備は、子どもにやさしいだけでなく、まち全体のにぎわい創出にもつながると考えています。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

公園や駅前交通広場については、子どもたちの意見を反映し、より魅力ある空間づくりを進めております。

また、子どもたちの命を守る取組として、スタントマンによる交通安全教室を開催し、教室開催後に生徒に対してアンケートを実施しました。そして、その効果を次なる施策へ継続的に反映してまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

けんちくぶちょう  
建築部長

いしい ひさと  
石井 寿人



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

今年度は市制60周年という節目の年であり、建築部としては、さらに安全・安心で住みよい住まい・まちの実現に向けて一步一步確実に、取り組んでまいります。

まずは市営住宅を含む市有建築物について、耐震化を進めるとともに、快適で安全な建物の整備に取り組み、安全・安心のまちづくりに努めてまいります。

また、安全で魅力ある住環境づくりの一環として老朽化した住宅などが集積する住宅密集地域における空き家の除却や防災道路の整備を進めるなど、安全・安心のまちづくりに努めてまいります。

### 私が考える子どもファースト

今年度も引き続き、建築部では総合計画に掲げられている「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」など「住みたい、住み続けたい」と思える魅力ある東大阪市の実現をめざし施策を進めてまいります。子どもや子育て家庭を取り巻く環境は日々多様化しており、施策を進めるにあたっては、子育て世代の目線で考え、取り組んでいくことを基本とし、子育て世代の方々にいつまでも東大阪市に住み続けたいと実感してもらえるようなまちづくりに努めてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

市民の皆様が家庭や子育てなど、未来に向けて楽しい夢や希望が持てるよう、利用者の声や利便性を十分に考慮し、積極的に意見を取り入れて、より一層満足していただけるようなまちづくりに取り組んでまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

しょうぼうきよくそうむぶちょう  
**消防局総務部長**

いりえ やすゆき  
**入江 康之**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

災害現場の最前線で活動する消防が積み重ねてきたノウハウや伝統を尊重しつつ、変化が著しい時代の流れに適応するしなやかさ、そして、将来をイメージする創造力を養う意識を持ちながら、消防行政の推進に努めてまいります。

消防局総務部では、消防庁舎の維持管理や消防車両・資機材の整備などの「消防体制の充実強化」、消防の原動力である人材の確保と効果的活用、さらには、持てる力を存分に発揮できるような職場環境づくりを念頭においた「人材育成の推進」、そして、地域防災の中核を担う「消防団の充実強化」を重点施策として取り組んでまいります。

これらの重点施策は、消防局組織がめざす方向や目標などを指し示すものとして策定された「第3期東大阪市消防力整備計画」を基調として、ハード・ソフトの両面の機能強化を図ってまいります。

また、令和3年度から10年間の期間で策定された「第3期東大阪市消防力整備計画」は、令和8年度が折り返しの年度となりますことから、これまで（前期計画）を振り返り、評価したうえで、これから（後期計画）に反映し、柔軟かつ確実に計画を実行できますよう努めてまいります。

### 私が考える子どもファースト

未来を担う子どもたちが夢や希望を持って生きることができる社会を実現するための取組において、その成果を実りあるものにするためには、子どもたちはもちろん、すべての市民が安全に日常生活を過ごすことが必要不可欠であり、消防局の局是（指針）である『市民生活の安全確保』を追求することこそが、子どもファーストの根幹であると考えています。

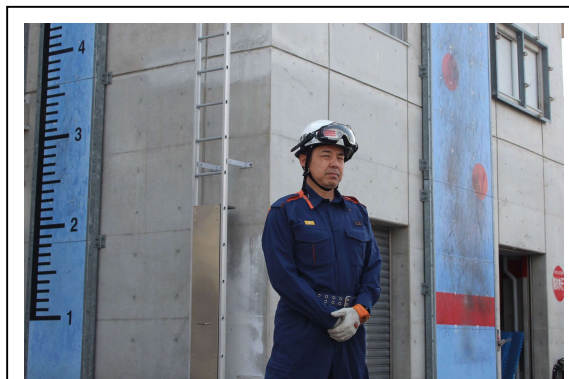
### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

子どもたちとのふれあいの中で、子どもたちの声や表情から感じ取れるものは、消防というイメージ像に対する“あこがれ”であると認識しております。その気持ちに応えられるよう、消防局が発信する情報などに寄せられる声に耳を傾け、消防行政の施策に反映していきたいと考えています。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

しょうぼうきよくけいぼうぶちょう  
**消防局警防部長**

きただ ひろあき  
**北田 博昭**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

消防局警防部では、市民の皆様の命と暮らしを守ることを第一に、「災害に強く安心して暮らせるまち」の実現に向けて取り組んでまいります。令和8年度は、令和7年度に開庁した西消防署布施分署の運用だけでなく、消防車両・資機材の整備を進め、迅速に対応できる消防体制の充実を図ります。また、市立東大阪医療センターにおいて「救急ワークステーション」を運用し、救急隊員の技術向上と医療機関との連携強化を進めることで、救急業務の質の向上に努めてまいります。

さらに、消防局最大のプロジェクトである「消防指令システムの更新」に着手し、最新の情報通信技術を活用した体制づくりを進めてまいります。この取組により、119番通報から出動までをより迅速かつ的確につなぎ、市民の皆様の命を守る体制を一層強化してまいります。あわせて、大規模災害時にも安定して機能する体制を構築し、市民の皆様の安全・安心を支える基盤の強化につなげてまいります。今後も、予防・警防・救急・通信指令の各分野をバランスよく強化し、市民の皆様に信頼される消防をめざしてまいります。

### 私が考える子どもファースト

私は、子どもたちが安全で安心して暮らせることが、まち全体の安心につながると考えています。防災学習センターでは、子どもたちが楽しく学びながら防災や火の取扱いについて知ることができる機会を提供し、火災の予防や防災意識の向上につなげています。

また、「夏休み子ども消防士体験」などの取組を通じて、命の大切さや助け合いの心を育む機会づくりを進めています。こうした取組により、子どもたちが安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、保護者の皆様にも安心して子育てしていただける環境づくりを、消防の立場から支えてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

東大阪市が進める「子どもを大切にするまちづくり」の考え方を踏まえ、消防においても子どもたちの声を大切にしていくことが重要であると考えています。防災教室や体験事業の中で、子どもたちの意見や気づきを聞く機会を設け、その声を防災教育や広報活動の改善に生かしてまいります。子どもたちの視点を取り入れることで、より分かりやすく実効性の高い防災の取組につなげ、将来にわたり安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

じょうげすいどうきょくすいどうそうむぶちょう  
上下水道局水道総務部長

いのうえ たかひろ  
井上 高宏



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

水道事業は24時間いつでも当たり前のように、安全で安心な水道水を市民の皆様にお届けすることが使命であると考えます。

本市水道事業の現状については、人口減少や節水機器の普及、節水意識の浸透により水道使用量は年々減少しており、それに伴い水道料金収入も減少傾向にあります。

一方で、水道管や配水場などの水道施設が老朽化しており、更新をする必要があります。また、大規模地震や台風などの自然災害への対策として耐震化も進めていかなければなりません。施設の更新には、近年の物価高騰も重なり、多額の費用が必要となり、厳しい経営状況が想定されます。

昨年10月に水道料金を改定させていただき、皆様にご負担をお願いしておりますが、引き続き、本市水道がめざす姿、目標及び施策の方向性を示した「ひがしおおさか水道ビジョン2030」に基づき、将来にわたり健全な水道事業が運営できるように努めてまいります。

### 私が考える子どもファースト

未来を担う子どもたちや子育て世代が、本市に「住みたい・住み続けたいまち」と思っただけの要素の一つが、いつでも安全で、安心な水を安定的に飲み、使用できる環境であると考えます。この環境を維持、向上していくことが「子どもファースト」に繋がるものと考えます。

未来を担う子どもたちが健やかに成長していく中で、その支えの一端を担えるよう、今後も健全な水道事業の運営に努めてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

水道週間や市主催のイベントに参加し、水道事業の紹介や水道水の大切さについて啓発を行い、子どもたちをはじめ市民の皆様には水道をより身近に感じていただけるよう取り組んでいます。

一人でも多くの子どもたちが、水道に興味や関心を持っていただけるように、これからも啓発活動に取り組んでまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

じょうげすいどうきょくすいどうしせつぶちょう  
**上下水道局水道施設部長**

かみに けんじ  
**神谷 建司**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

水道施設部では、各家庭や事業所などに安全で安心な水道水を安定して届けるため、浄水場や配水場、水道管（配水管）などのライフラインの「設計・建設」、「運転・維持管理」、「耐震化・更新」などの仕事をしています。

水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水機器の高効率化により料金収入が減少する一方、増え続ける老朽施設の対応において人件費や材料費の高騰による更新費用の増大など、年々厳しさを増しています。そうした中で南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害の発生時に備えた耐震化はより急務となっており、施設や管路の耐震性強化や老朽化対策を重点的に取り組んでいく必要があります。この環境の変化に対応するため、昨年度に「ひがしおおさか水道ビジョン2030」の計画期間の後半5年間における事業実施計画として「水道施設等再構築事業（第2期）」を策定しました。令和8年度の特に力を入れる2つの施策、一つ目は、本市最大かつ最重要の施設である水走配水場更新に向けた基本設計および地質調査業務ならびに、新水道庁舎建設工事に着手します。これらは、災害時等に市民生活に及ぼす影響が非常に大きいため、最優先に取り組みます。二つ目は、特に重要な水道管である基幹管路の耐震化、また配水支管は、老朽管更新にあわせて、主要医療機関や避難所などの重要給水施設への供給ルートの耐震化を行い、災害時等においては、被害を最小限に抑え早期復旧ができるよう強靱な水道の構築に取り組んでまいります。

### 私が考える子どもファースト

未来を担う子どもたちや市民の皆様に水道をもっと身近に感じていただき、積極的な情報発信等により水道に対する理解を深めていただく必要があります。持続可能な水道を構築することで、子どもたちの未来・将来を支えていけるよう、これからも「安全で安心な水道水」を皆様に絶え間なく届けてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

水道への興味と水道水の安全性や水質の良さを理解してもらうことを目的に、小学4年生を主な対象とした生涯学習出前講座や市主催イベントなどに参加して水道のPRに努めています。これらの取組により、子どもたちを含む市民の皆様に水道への理解を深めていただき、持続可能な社会の実現に向けた意識を育んでいただきたいと思います。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

じょうげすいどうきょくげすいどうぶちょう  
**上下水道局下水道部長**

くまの さとし  
**熊野 智**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

下水道部は、災害に強く、安全・快適な暮らしを継続して市民に提供できるよう全力で取り組んでまいります。

本市の下水道は昭和24年から整備を開始し、市域内のほとんどの場所で下水道を利用できるようになりました。その結果、衛生環境の向上、浸水被害の軽減によって生活環境が飛躍的に改善されました。

記憶に新しい老朽化した下水道の破損を起因とする埼玉県八潮市の道路陥没事故は、今なお生活環境に大きな影響を及ぼしています。本市においても既存施設の点検・調査を計画的に実施することで、いち早く修繕・改築更新箇所を特定し、効率的な老朽化対策を進めてまいります。

また、気候変動による豪雨災害が頻発化していることから、浸水対策も重要課題となっています。下水道部においては河川流域全体のあらゆる関係者が協働し一体となって水害を軽減させる「流域治水」の一環として、既存の下水道管では処理できない雨水を地下河川へ排水する新大蓮北放流幹線整備工事を進めています。

下水道事業の運営は、様々な取組が求められる中、今後も厳しい財政状況が見込まれますが、「東大阪市下水道事業経営戦略」を軸に効率的な事業運営、持続的な下水道サービスの提供に努めます。

### 私が考える子どもファースト

未来を担う子どもたちや子育て世代が、安心して下水道を利用できる良好な生活環境を守り、次世代に引き継いでいくことが私たちの役割です。そのためには、今後も持続可能な財政運営と災害に強い施設運営をめざして各種取組を進め、東大阪市の下水道を守ってまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

下水道部では、毎年小学4年生向けに下水道の仕組みや市の取組をまとめたパンフレットを配布しています。SNSの活用やマンホールカードの配布を含め、まずは下水道について知ってもらえるように、下水道事業の大切さや水環境の未来について考えるキッカケ作りとなる取組を進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

きょういくせいさくしつちょう  
教育政策室長

かさまつ ひろし  
笠松 博



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

社会の構造や情勢が激しく変化し、将来の予測が困難な時代を迎えている今、目まぐるしい変革への対応はもちろんのこと、10年、20年先を見据えた教育の実現が求められています。

教育政策室では、教育長および教育委員に直結した組織として、各種情報の収集・分析、施策の企画・立案、事務事業の進行管理等を担うとともに、教育委員会内の各組織間を横断的に調整し、機動的に、スピード感をもって、本市教育施策の充実に取り組んでまいります。

### 私が考える子どもファースト

私が考える子どもファーストとは、子どもを単なる「支援の対象」として捉えるのではなく、未来をつくる「主体」として尊重し、その最善の利益を教育も含めたあらゆる行政分野において最優先に考える姿勢であると捉えています。

教育委員会としては、子ども一人ひとりが安心して学び、挑戦し、自分らしく成長できる環境を整えることを通して、子どもたちが夢や希望を持てる東大阪市の実現に向け、各種施策に取り組んでまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

令和5年に施行されたこども基本法では、こどもが意見を表明する機会の確保と、その意見を尊重し施策に反映することが基本理念として位置付けられています。教育分野は、子どもの声に最も近い領域であり、その声を教育行政にどのように生かしていくのかが問われています。

教育委員会としては、学校現場や社会教育の場で得られる子どもの意見や気づきを大切にするとともに、単に意見を聞くだけで終わらせるのではなく、それらをどのように受け止め、どのように施策へ反映したのかを丁寧に考え、積み重ねていくことで、子どもたち一人ひとりの多様な才能や能力、その可能性を最大限に伸ばすことができる教育環境づくりを進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

きょういくしつちょう  
みらい教育室長

ながた やすまさ  
永田 泰正



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

みらい教育室では、本市の学校教育の一層の充実に向け、これまで進めてきた小中一貫教育の成果と課題を踏まえつつ、国の今後の教育の在り方を話し合う中央教育審議会が示す「令和の日本型学校教育」の方向性に基づき、社会の変化に対応した教育施策の推進に取り組んでまいります。

学校教育に係る諸課題については、関係する部署と連携し、横断的な視点から施策の企画及び調整を行います。

また、教育に関する広報の充実、教育ICTに関する総合的な企画立案及び推進、就学前と小学校との円滑な接続を図る取組を進めるとともに、特に学校規模の適正化については、学校規模適正化担当官を配置し、重点的に取り組んでまいります。

### 私が考える子どもファースト

社会の変化が一層進み、価値観や生き方が多様化する中、子ども一人ひとりの状況や特性に応じた教育の充実が、これまで以上に求められています。

子どもは本来、自ら学びを切り拓く力を備えた存在であり、好奇心を起点に「知りたい」「理解したい」「関わりたい」「試してみたい」といった思いを持ちながら成長しようとしています。こうした姿に応えていくためには、「教えること」を中心とした授業から「子ども自身が学びに向き合い、探究する学習」へと転換を図っていくことが重要です。

本市では、「夢TRY科」において、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づき、探究のプロセスに沿って学習を進めていく中で、これまでの知識や経験と、整理された情報が結びつき、自分の考えが深まったり、課題がより鮮明になったり、新たな気づきを得たりすることにつながっています。これらの学習を通して、今後の社会を生き抜くための資質・能力を育んでいきたいと考えています。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

子どもの意見を教育施策に適切に反映していくためには、意見を把握する機会の確保と、その活用の双方を踏まえ、取組を進めていくことが重要であると考えています。

本市教育委員会では、児童生徒を対象に、学校生活や学習状況等に関するアンケートを毎年実施しており、それによって把握した意見や分析した結果については、関係課室と共有し、今後の学校園や市教育委員会の取組改善や、教育施策の検討につなげてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

しせつせいびしつちょう  
**施設整備室長**

じょうた あきひろ  
**上田 章博**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

施設整備室では、学校園施設の教育環境の維持向上に関する業務を行っています。ハード面を主とする様々な業務が多岐にわたっており、施設整備室内においてより密に連携して業務を進めるために、私は組織内における情報共有に努めています。施設整備室の令和8年度の主な業務としては、「東大阪市学校施設長寿命化計画」に基づく計画的な学校校舎等の改修に加え、安全な施設整備を目的とした体育館床のスポーツ用シート化を進めてまいります。

また、数年後に耐用年数を経過する空調設備の一斉更新に備えるため、調査検討のうえ効率的な事業手法を選定します。このように、学校園で園児・児童・生徒が安全で快適に過ごせるよう、今後も教育環境の向上に努めていきます。学校園の建物整備以外では、令和7年度に調達した児童生徒用端末について、スムーズに運用できるように支援します。今後もGIGAスクール構想を推進するため、ICT機器の整備、維持管理をみらい教育室及び学校教育課と連携して行います。また最適な児童生徒の学習指導や生活指導、教職員の働き方改革にも寄与する統合型校務支援システムを有効活用するとともに、学習に活用するための機器やシステムなどの環境整備に引き続き努めます。

### 私が考える子どもファースト

学校園は、子どもたちにとって大切な学習及び生活の場です。私は「子どもファースト」の理念に基づき、子どもたちが健やかに学び、生活できる環境づくりに努めます。学校園施設の維持管理や改修にあたり、子どもたちの安全性や利便性を最優先に考え、快適に過ごせる環境の確保に努めます。また、ICT機器の整備、充実を図るとともに、その活用を促進することで、教育の質の向上につなげ、子どもたちの学びの支援に努めます。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

施設整備室の業務は、学校園での子どもたちの学びや生活に深く関わっており、学校園を通じて子どもたちの意見が直接届きます。子どもたちからいただいた意見にしっかり耳を傾け、それをどのように実現できるのか、一つひとつ丁寧に進めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

がっこうきょういくぶちょう  
**学校教育部長**

すぎもと  
**杉本 たか**



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

学校教育部では市立学校園と連携し、子どもたちが安心して学べる環境づくりに取り組んでいます。子どもたち一人ひとりが自ら考え行動する力、可能性に挑戦し続ける力、予測困難な時代を生き抜いていく力が身に付けられるよう、様々な取組を進めてまいります。

子どもを取り巻く環境が複雑化する中、学校園だけで対応することが困難なケースが増加しています。様々な問題が重篤化・困難化しないよう、今年度より弁護士等の専門家で構成する学校問題解決支援チームとともに学校園の対応を支援します。併せて、スクールソーシャルワーカーの拠点校と校内教育支援ルームの支援員の配置も拡充し、誰一人取り残さない学びの保障に向けた体制の充実を図ります。不安や悩みを抱える児童生徒への多様な学び場を提供し、居心地の良い安心できる学校環境づくりと、子どもの小さな変化に気付ける体制づくりに努めてまいります。

現在、次期学習指導要領の審議が進められ「学ぶこと」そのものが大きく変わろうとしています。ICT機器等も効果的に活用しながら、生涯にわたり探究心を持ち続ける子どもを育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け支援してまいります。同時に、教職員が自ら学び、対話や振り返りを通して学びを深める研修を充実させ、教職員の実践的な指導力を高めるとともに、学校園全体の教育の力を高めていけるよう取り組んでまいります。

また、多文化共生教育を推進し、様々な子どもたちが互いの違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくことのできる力を育ててまいります。

### 私が考える子どもファースト

昨年度より小中学校全学年の学校給食費の無償化を実施しており、引き続き子育て世代を支援してまいります。今後も成長期にある児童生徒の健康の増進、体位の向上を図るとともに、児童生徒の皆さんが楽しみとなる給食を提供してまいります。

また部活動改革に向けて、地域展開を見据えたプロジェクトチームを設置し、子どもたちがスポーツや文化活動に親しめる持続可能な東大阪市独自の部活動の在り方を検討してまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

日新高校では、「世界を広げる学びのプロジェクト」のクラウドファンディングを行い、多くの方にご寄附いただきました。今年度はそれを基に生徒たちが自分たちで考え学んでいけるよう、サポートしてまいります。また、今年度より開催予定の「子ども・若者版地方創生ラウンドテーブル」における意見も参考にしながら、施策に反映できるよう努めてまいります。

## 令和8年度 部局マネジメント方針

しゃかいきょういくぶ ちょう  
社会教育部長

こうづき さとこ  
上月 達子



### 私の決意（仕事に対する基本姿勢及び部局の取組方針）

すべての人が心豊かな人生を送るためには、あらゆる機会に、あらゆる場所で学習の機会が保障され、積極的に地域社会に関わる中で、その成果を発揮できる社会を実現することが求められます。

近年、社会が急速に変化し続ける中で、発生する課題も多様化・複雑化しており、それらに対応するためにも、誰もが生涯にわたって学び続けることができる環境づくりは重要であると考えます。

社会教育部では、人生100年時代に市民の皆様が豊かで充実した生活を送ることができるよう、単なる知識の習得だけではなく、心身の健康、豊かな人間関係、自己実現につながる様々な施策に取り組んでまいります。

### 私が考える子どもファースト

子どもたちの生きる力は、学校以外でも、多様な人と関わることや、様々な経験を重ねていく中で育まれるものです。

児童文化スポーツセンター（ドリーム21）、野外活動センター（自由の森なるかわ）、図書館等の社会教育施設は、家庭や学校外で教育的意義のある体験活動を子どもたちに提供できる場所であり、積極的に活用いただくことで、子どもたちの社会性や自主性を育み、心豊かな成長につながるものと考えます。

子どもたちがいきいきと、楽しく学べる機会の提供に一層努めてまいります。

### 子どもの意見を聞き施策に反映するための取組

市立図書館における今後の運営方針を定めた「第二次東大阪市立図書館基本構想」を策定する際には、小中学生を含めた各年齢層へのアンケートを実施し、新たに児童相談所との複合施設として整備される新四条図書館に望むものについて意見を集約しました。

また、子どもを養育される保護者の意見を反映させた取組としては、現在の四条図書館において、館内で周囲を気にせず声を出せる時間「ベビータイム」を提供し、赤ちゃん連れでも気軽に来られる時間を設定することで、すべての人が利用しやすい工夫をしています。